

巻頭言

NPO 法人愛知県理学療法学会理事
蒲郡市民病院 リハビリテーション科
星野 茂

理学療法の発展

私が理学療法士免許を取得し30年を超えました。当初はリハビリテーションという言葉で勤務先でも啓蒙する日々で、理学療法などという単語は全く世間には知られてはいませんでした。全国でも3,000人足らずの理学療法士数も現在は10万人を超え医療専門職数でも業界第3位?伸び率では断トツの1位、リハビリという言葉は世間にあふれ、理学療法士という職種は中学生でも認知されてきています。これだけを見るとまさしく日の出の勢いの職業であり、理学療法は30年で大きく発展したと言えそうです。

現在、全国で地域包括ケアシステム推進(生活を支える活動)を目的に様々な事業が取り組まれています。これまでの日の出の勢いがあるなら何の苦労もなく、社会に必要なとされ売り手市場の左うちわの時代が訪れていそうですが、現実には全国どこの理学療法士も参画に期待はあるものの、かなり苦労されているのが現実です。

私も含め多くの理学療法士は診療報酬・介護報酬改定等で一喜一憂し、常に出来高を意識し、医師からの指示を基に疾患の評価・治療の業務をこなし報酬を得て、利用者の治療・サービス向上に当たっています。これは最低限の理学療法士としての業務でありこの行為は学問的にも体系化され発展してきました。また、その行為は自らが所属する法人等の存続に貢献し、法人等の社会的意義を果たす活動となっていますが、理学療法士としての社会的存在の意義については少し物足りなさを私は感じます。

先日、私が受けた講義に専門職とは①体系的な知識(学問)を長期間学ばないと就けない職業②自己の利益よりはむしろ公共への奉仕を指向していることとありました。公共への奉仕とは社会生活全般を指し、保健・医療・福祉のみではないことを常に意識すべきと考えます。社会生活全般に求められることを学術活動に繋げ、そこで体系化された知識が社会に還元され、理学療法士の必要度など社会的存在が大きくなることこそ、真の「理学療法の発展」と言えると私は確信しています。

今後はより社会のニーズ(生活や国策など)を的確にとらえ理学療法士が当たり前社会(医療・福祉・保健領域のみではない生活全般)にいる時代を築き上げるべく学術・職能活動を推進し、理学療法の発展を支えていきたいと私は考えています。
